

令和8年度 香川の教育づくり発表会 発表概要

○道徳教育地域支援委託事業

学校や地域の実情に合わせて学校の道徳教育の指導内容が児童生徒の日常生活に生かされるようにするために、道徳教育の質的転換に向けた指導方法の改善、道徳教育に係る評価の在り方等について研究推進しています。

1	坂出市立林田小学校
	<p>【研究主題】自己の生き方についての考えを深め、よりよい生き方を求める道徳教育 —主体的に考え、自他共に認め合い、高め合う児童の育成—</p> <p>道徳科を要として、他教科や特別活動、本校の特色ある取り組みなどを関連させた単元化を図り、道徳科での学びを日常生活においても実践しようとする意欲や態度の向上を目指しています。本発表では、児童に課題意識をもたせ、自分事として考えさせるための手立てを中心に、これまでの研究における成果と課題について発表します。</p>
2	坂出市立松山小学校
	<p>【研究主題】自ら学び、考えを深める児童の育成 ～ともにによりよく生きる道徳教育の充実を目指して～</p> <p>道徳教育地域支援委託事業の研究で、「郷土愛」と「自己の生き方」をつなぎながら、総合単元的道徳学習等を通して、考えを広げ深める授業づくりに取り組んだ内容、成果と課題を発表します。</p>
3	多度津町立豊原小学校
	<p>【研究主題】子どもが問いをもち、協働し、よりよく生きようとする力の育成 ～実生活につながる総合単元的道徳学習を軸として～</p> <p>自ら問いを見出し、よりよい生き方を考え続ける力を育むため、総合単元的道徳学習を軸に各教科や日常生活等を関連付けた学びを展開しています。問いをもち、主体的に考えて他者と協働することや、多様な価値観にふれて自らを見つめ直し、道徳的実践意欲を高めることを目指した、これまでの取り組みについて発表します。</p>
4	高松市立牟礼中学校
	<p>【研究主題】なかまとともに豊かな心を育む道徳教育 ～自己を見つめ、互いに高め合う授業の工夫～</p> <p>なかまづくりを基盤とした道徳の授業と効率的な校内研修についての研究を行いました。持続可能な道徳科の授業づくりや研修の在り方についての研究に3年間取り組んできたことを発表します。</p>

○主体的・対話的で深い学びの実装推進モデル校事業

本県の子どもたちの確かな学力を育成するために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実の実現に向け、「学習環境」「学びがいのある課題設定」「自己選択・自己決定」「学びの過程の振り返り」の授業改善に向けた取り組みをしています。

5	坂出市立加茂小学校
	<p>【研究主題】他者と関わりながら楽しさを感じ、個が高まる学びづくり（二年度）</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実装に向けた授業改善と個を活かす「ふれあい活動」の実践に取り組んでいます。特に、①学びがいのある学習課題の設定、②自己選択・自己決定する場の保障、③必要感のある協働的な学びの設定、④個に視点をあてた授業研究体制の構築の4つの視点での実践を中心に発表します。</p>
6	観音寺市立栗井小学校
	<p>【研究主題】「主体的に学びに向かう児童の育成」 ～読みたい、書きたい、話したい 国語科の授業づくりを通して～</p> <p>授業改善の視点を「学びがいのある課題設定」、「自己選択・自己決定」、「伸びを実感できる振り返り」の3つに設定し、昨年度から全校で研究に取り組んでいます。今年度学力向上モデル校事業で授業公開した4年生、5年生の読むことでの実践を中心に、研究方法や研究成果、今後の課題などを発表します。</p>

7	綾川町立綾川中学校
	<p>【研究主題】ともに楽しむ授業づくり ～分かる、できる、全員参加の楽しい授業を目指して～</p> <p>昨年度導入したチーム別授業研究体制のもと、本年度は、それぞれの教員が「学びがいのある学習課題」、「選択・判断」、「学び合い」、「振り返り」の中から、重点的に取り組みたい項目を一つ選択し、共通のテーマをもつ教員で編成された少人数のチームを母体に、研究を進めています。その成果等について発表します。</p>
8	多度津町立多度津中学校
	<p>【研究主題】「わかる・できる」を実感し、学びを自ら調整する生徒の育成 ～ICTでつながり、「自分がつくる」授業を目指して～</p> <p>本校はNEXT GIGA研究推進事業を通じ、端末活用と生徒主体の学習基盤を築いてきました。この成果を基盤に「主体的・対話的で深い学びの実装事業」を展開し、デジタルを思考や表現の手段として「質」高く利活用する授業へ進化させます。生徒が自ら問いを解決する探究的な学びを深化させ、更なる学力向上を図ります。</p>

○「読解力」向上推進モデル校事業

「確かな学力」の基盤となる「読解力」を、各教科、各学年においてどのように高めていくのか、各教科、各学年の実践を通して、その方策について研究を推進しています。

9	まんのう町立高篠小学校
	<p>【研究主題】主体的に考え、行動する児童の育成 －「テキストを理解し、利用し、熟考する」、教師の「しかけ作り」（第2年次）－</p> <p>昨年度より、本校なりの「読解力」を定義し、授業の「しかけ作り」を行ってきました。今年度は、授業の行動場面においての「しかけ」の開発、振り返り場面において、「読解力」に特化した振り返りの開発を中心に研究を行っています。授業や日常生活で取り組んだことについて、成果と課題を合わせて発表します。</p>

○外国語教育推進モデル校事業（委託業者との連携）

海外の同年代の子どもとオンライン交流を組み込んだ授業づくりの実践等の取り組みをしています。

10	直島町立直島中学校
	<p>【研究主題】「コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成」 ～即興性のあるやりとりとICTを活用したペア・グループ活動の実践を通して～</p> <p>本事業の2年目として、今年度は昨年度の課題であった「会話を広げる力」と「自分の意見を伝える力」の育成に焦点を当て、日々の授業における指導法の工夫と実践に取り組みました。活性化を目指した「即興的な言語活動」の実践を通じ、コミュニケーション能力を向上させるプロセスとその価値や課題を広く他校に発信します。</p>
11	丸亀市立飯山中学校
	<p>【研究主題】「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動 及び 姉妹都市との交流 聞く力を育む工夫や Small Talk の継続による即興性の向上を図り、ALT を積極活用した「English Day」の実施に取り組みました。さらに総合的な学習の時間を活用した全教員による授業や姉妹都市との交流へと拡張させ、生徒の「やり取り」の力を育むプロセスとその価値を広く発信します。</p>

○外国語教育推進モデル校事業（香川大学との連携）

香川大学への留学生との対面交流を組み込んだ授業づくりの実践等の取り組みをしています。

12	坂出市立坂出中学校
	<p>【研究主題】『主体的・協働的に学び、自他の考えを受容・発信できる生徒の育成』 ～ 学びの「楽しさ」の追究を通して 外国語からのアプローチ ～</p> <p>本校では、学びの「楽しさ」を追究するために、コミュニケーション活動の充実を目指しています。本発表会では、香川大学と連携し、留学生との交流を通して「相手意識」をもって主体的にコミュニケーションを行うことで達成感や充実感を得たり、英語活動への意欲化を図ったりするための授業づくりについて報告します。</p>

○全国学力・学習状況調査の結果を活用した検証改善サイクルモデル校事業

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に取り組む継続的な検証改善サイクルの確立に向けた取り組みをしています。

13 高松市立三溪小学校

【研究主題】 個を伸ばし、学び合う集団へと成長させる教育活動の推進

～「問い」と「振り返り」を基盤とした、主体的・協働的な学びの充実～

令和7年度及び令和8年度の全国学力・学習状況調査の結果から見られた課題を分析し、「問い」と「振り返り」を基盤とした主体的・協働的な学びの充実を目指し、提案授業および研究討議の実施による授業改善を行いました。その成果と課題を挙げ、授業改善の具体的な実践例や本校の取り組みについて発表します。

○幼・小連携実践研究事業

小学校教員が就学前教育施設における研修を通じて、幼児期から児童期への長期的な視点で子どもの発達を捉え、就学前教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取り組みをしています。

14 まんのう町立長炭こども園

【研究主題】 幼児期に育まれる非認知スキルを基盤とした幼小接続の在り方

～ こども園・小学校の接続の工夫 ～

幼児期に育まれる非認知スキルに着目し、こども園での遊びや生活の中で見られる子どもの育ちについて事例を通して紹介します。こどもの姿を支える環境や保育者の関わりから得た気づきや学びを基に、幼児期からの育ちを小学校のスタートカリキュラムへつなぐために大切にしたいことを発表します。

○明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業

いじめの未然防止教育を中心とした「絆づくり」と「居場所づくり」の取り組みによる「いじめのない学校づくり」「魅力ある学校づくり」「安全・安心の学校づくり」を推進することで、児童生徒が「明日も行きたくなる学校」を実現することを目指します。

15 さぬき市立さぬき南小学校

【研究主題】 互いに認め合い、ともに学び合う子どもの育成

～自分の思いや考えを主体的に表現し、互いの考えを認め合うことができる子どもの姿を目指して～

「明日も行きたくなる学校づくり」をテーマに、児童が学校づくりの主体となることを目指した実践について発表します。アンケートで明らかになった学校への願いをもとに、委員会活動や異学年交流などを展開し、主体性や自己有用感、互いを認め合う関係性の育成を図った取り組みと成果について紹介します。

16 まんのう町立仲南小学校

【研究主題】 つなぐバトン、ひらく未来

～児童・学校・地域でわくわくを創り出そう～

いじめのない安心して学べる学校づくり、心の小さなSOSの早期発見・早期対応、不登校を生まない魅力ある学校づくりを目指し、創立20周年記念事業を軸として、児童が主体的に企画・実践する様々な活動を展開した取り組みについて発表します。

17 高松市立太田中学校

【研究主題】 明日も行きたくなる学校づくりを目指して

— 生徒自治を核とした非認知能力の育成とウェルビーイングの向上 —

生徒自治を核とした非認知能力の育成とウェルビーイングの向上に向けた実践について

・安心して学べる学校づくり

(道徳教育の推進、教職員研修の充実)

・心の小さなSOSの早期発見・早期対応

(SCによるSOSの出し方授業)

・魅力ある学校づくり

(人権学習における探究学習への挑戦、生徒の自治活動を重視した生徒会活動)

18	三豊市立高瀬中学校
	<p>【研究主題】「笑顔と感謝が響き合い、明日も行きたくなる学校」を目指して</p> <p>「楽しい」「わかった」と実感できる授業実践や、生徒プロジェクトチームを中心とした生徒主体による学校行事等の企画・運営の取組みについて発表します。あわせて、夜間学級における、年齢や国籍など多様な背景を持つ生徒一人ひとりに寄り添った、「個に応じた学び」の実践についても報告します。</p>

○校内サポートルーム（KSR）研究指定校事業

空き教室を利用し、教室とは異なる雰囲気の内校内サポートルームを開設することを通して、不登校傾向の児童生徒の社会的自立に向けた有効な取組みについて研究を行っています。環境や居場所づくり、学習保障や協働体制の在り方、SCや家庭との連携など、個別最適な学習機会を確保し、多様で適切な自らの学びの選択肢を増やすことにつなぐための取組みを各校で行っています。

19	高松市立桜町中学校
	不登校（傾向を含む）の生徒の思いを尊重し、専属担任を中心に全教職員や関係機関が連携した支援を行います。生徒に無理のない自己決定を促しながら、適切な生活・学習環境や関わりを提供し、自己有用感を高めるとともに、社会的自立や目的意識を持った進路選択を支援するための取組みについての実践を報告します。
20	高松市立太田小学校
	不登校傾向の児童の社会的な自立に向けて、「新たな不登校をつくらない」「不登校を解消する」を基本方針に、居場所づくりや学びの環境づくり、未然防止・早期発見対応、活躍の場づくりなどの効果的な取組みを報告します。
21	高松市立国分寺南部小学校
	本校はKSR（ふわりステーション）を常時開設し、重層的な支援を行っています。個別にアセスメントし、規律の形成や行動変容を急ぐのではなく、児童理解を重視する2人の支援員が関わることで、児童が居場所感を得られる環境を整えています。児童はふわりステーションで心理的エネルギーを蓄え、自ら物事を選択・決定する経験を重ねていきます。こうした主体的な意欲を引き出すプロセスを通じて、社会的自立を促すことを目指しています。
22	さぬき市立志度小学校
	登校したい気持ちはあるが、教室への不安が強い児童に対し、安心できる居場所を確保し、信頼関係づくりや段階的な参加支援を行いました。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の多様な人材と連携した組織的な支援を行った結果、登校継続や他者との関わりが広がりが見られ、社会的自立への支援となりました。
23	東かがわ市立引田小学校
	学校に来られない児童とつながりを持続させるための小学校における環境及び校内体制の在り方と、中学校進学に向けての持続的な支援と進学後の居場所づくりといった引継ぎを兼ねた中学校における校内サポートルームの活用について、発表します。
24	丸亀市立飯山北小学校
	KSRの研究指定校（3年目）として「児童一人ひとりが安心できる居場所の確保と個の思いに寄り添った支援体制の構築に向けて」をテーマに研究を進めています。「情報共有」「環境整備」「自主性」を大切にして、担当を中心に児童を支えています。校内の連携体制、児童への関わり方を中心に、児童の安心できる居場所づくりへの取組みを継続しています。
25	丸亀市立城坤小学校
	不登校に陥る「きっかけ」と「原因」を明確に区別することで、不登校児の内面と背景を考察しています。また、再登校に向けた個に応じたサポートルームでの取組みと、これからのサポートルームの展望について考察します。
26	観音寺市立豊浜中学校
	本校は、研究指定校として4年目を迎え、今年度から教育支援員（KSR-2。教員免許をもたない学習支援員）を配置し、KSR担当と連携しながら生徒の支援を行っています。生徒にとって安心・安全な居場所づくり、進路を意識した学習保障を核に、それぞれの立場・関係性を活かした効果的な不登校支援の在り方を報告します。

27	三豊市立三野津中学校
	<p>ー長期的視野に立った「君のことを気にかけて続けているよ」を伝え続けることのできる校内支援体制の充実ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同事例検討会等で専門家の助言を取り入れながら、全教職員の共通理解を図る。 ・専門家との効果的連携で拗らせない早期からの適切な対応を促し、問題解決に生かせるK S Rを構築する。

○NEXT GIGA研究委託事業

児童生徒1人1台端末の更新等が進む機会を、新たな時代にふさわしい教育の実現をめざす「NEXT GIGA」と位置付け、クラウドツール等の「デジタル学習基盤」を最大限活用した、学びや校務のDXを推進しています。

28	綾川町立陶小学校
	<p>【研究主題】クラウドツールがつなぐ業務効率化と『校務DX標準モデル』の発信 ～県域アカウントが創る校務環境の未来～</p> <p>NEXT GIGA研究委託事業（校務のDX）指定を受け、県域アカウントを活用した校務スリム化に挑戦。教職員の業務改善と児童と向き合う時間の創出を目標に取り組んだ実践をご紹介します。これから県域アカウントの運用を開始する学校でも、明日からすぐ取り組める事例や今後の課題をお伝えします。</p>
29	多度津町立多度津小学校
	<p>【研究主題】ICTを有効活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ～自己調整力向上のための授業デザインと学習環境の在り方～</p> <p>心理的安全性を土台に、自己調整学習（動機付け・方略・メタ認知）を通じて自らの学びをコントロールする力を育みます。その力を「習得・活用・協働探究」へとつなげ、最終的に子供自身の問いを粘り強く追究する「個人探究」へと発展させます。その際、ICT や生成 AI を自己調整と探究の手段として活用します。</p>
30	多度津町立四箇小学校
	<p>【研究主題】どの子も「わかる・できる・認め合える」授業づくり ～「ちがい」を生み、認め、活かすことで深める学び～</p> <p>本発表会では、理科・体育・社会・国語でICT端末を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる指導の工夫を提案します。児童が自身の課題に応じた学習を選択・振り返り、ICT端末での共有や対話を通じた協働的な学びの中で、主体的に問題解決や思考を深める姿を目指します。</p>
31	多度津町立多度津中学校
	<p>【研究主題】「わかる・できる」を実感し、学びを自ら調整する生徒の育成 ～ICTでつながり、「自分がつくる」授業を目指して～</p> <p>本校は NEXT GIGA 研究推進事業を通じ、端末活用と生徒主体の学習基盤を築いてきました。この成果を基盤に「主体的・対話的で深い学びの実装事業」を展開し、デジタルを思考や表現の手段として「質」高く利活用する授業へ進化させます。生徒が自ら問いを解決する探究的な学びを深化させ、更なる学力向上を図ります。</p>

○社会に開かれた学校教育創造事業

民間事業者のノウハウや活力を活用して長期休業中の講座や土曜講座などを開設し、学校のカリキュラム外で、知的好奇心を刺激する複数のテーマによる講座等を継続的に実施し、モデル校においてその効果の実証研究を推進することをおして、民間と連携し、地域全体で子どもたちの新たな学びの場の確保に向けたモデルケースの構築を目指しています。

32	公益社団法人全国学習塾協会
	<p>民間の教育事業者として、カリキュラムにとらわれず、子どもたちが自ら学習意欲と知的探求心を高めるよう努力してきました。英単語力養成、天声こども語を利用した読解力養成、パズルを使った算数への興味、自分の手で行う理科実験、生成系AIの活用など全9講座を用意し取り組んできました。その内容や成果等を発表します。</p>

○中高連携アントレプレナーシップ教育推進事業

探究的な取組みを充実させている高等学校と連携可能な中学校をモデル校として設定し、県内起業家や地域企業・自治体等と協働した課題解決型探究活動を推進することで、地域の歴史や自然、産業に対する興味・関心を高め、将来の地元進学、地元就職を選択する中高生の増加を目指しています。

33	香川県立小豆島中央高等学校・土庄町教育委員会・小豆島町教育委員会
	<p>【研究主題】 未来の小豆地域を担う人材の育成 ～地域の強みを生かしたふるさとキャリア教育を推進する中で～</p> <p>中高連携やアントレプレナーシップ教育への理解から始まった１年目。小豆地域の３中学校それぞれのスタイルの「ふるさとキャリア教育」を通じ、ふるさとの未来に向けた思考力や主体的に貢献する態度を培うことをねらいとしています。総合的な学習の時間において探究的な学びをどう作るか……。アマモ・アートなどを地域資源を教材とした実践を紹介します。</p>
34	三木町立三木中学校
	<p>【研究主題】 『郷土 人を愛する』 ～地域のヒト・モノ・コトとのつながりから、自らと地域の将来を考える～</p> <p>高校、地域とのつながりを通して、地域課題を自分事として考える機会を創出しました。地域イベントへの参加についても、より探究的な取組みへと変革のスタートをきりました。現在と将来の自分、そして現在と将来の町を関連付けながら捉え、共に未来を構成していこうとする力の育成を目指した取組みを紹介します。</p>
35	琴平町立琴平中学校
	<p>【研究主題】 ふるさとのよさを発見し、よりよい町づくりについて主体的に考える生徒の育成 ～高等学校における探究学習の実践との連携を通して～</p> <p>琴平高校では、地域の課題を見つけ、その課題を追究していこうとする探究学習「琴平道」が行われています。中高が連携し、中学生がこの学習に参加する体験等を通して、探究的な学習の方法について学ぶことに加え、自らのふるさとに愛着を持ち、ふるさとをよりよい町にしたいという生徒を育成しようとする試みです。</p>

○自主発表

36	高松市立花園小学校
	<p>【研究主題】 教育課程柔軟化サキドリ研究校事業（１年目）における校内の取組み</p> <p>令和８・９年度に「教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」を受け、教育課程を見直してきました。各教科の授業時数を調整し裁量の時間を設けることで、どのような教育効果があったか。また、教職員でどのように共通理解を図り教育活動を進めていったか。明らかになった課題と今後の展望を整理し紹介します。</p>
37	高松市立屋島小学校
	<p>【研究主題】 学びの場「特別支援学級」のレベルアップ ～一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実のために～</p> <p>特別支援教育課「学びの場（特別支援学級等）レベルアップ事業」において、特別支援学級の学びの場の充実に取組みました。その中から、個に応じた自立活動の指導、個に応じた学習指導、特別支援学級からの退級プログラムについて発表します。</p>
38	丸亀市立城西小学校
	<p>【研究主題】 「チーム担任制」への取組み</p> <p>第３学年において「チーム担任制」を実施しています。本校における「チーム担任制」のねらい、導入までの経緯、体制づくり、取組みの実際等を紹介し、児童や保護者、教職員の声を基に成果と課題を明らかにするとともに、市内の実践校の取組みも参考にしながら、「チーム担任制」の可能性を探ります。</p>

39	坂出市立坂出小学校
	<p>【研究主題】小さな「できた」で、子どもと学校をつなぐ 校内サポートルーム研究指定校としての研究期間を終え、今年度は加配教員が配置されない中で、全教職員が「小さな『できた』を認め、価値付ける」支援を軸に、子どもたちが「やってみよう」と思える機会を増やし、学校とのつながりの構築に努めた成果と課題について発表します。</p>
40	丸亀市立東中学校
	<p>【研究主題】こくさい教室10年の歩みと今後の展望 ～誰一人とりこぼさない学力保障と確かな進路保障を目指して～ こくさい教室10年の歩みを通じ、外国にルーツを持つ生徒45人への日常支援や学力保障、自尊感情を育む居場所づくりの成果を発表します。また、一人ひとりの進路実現を支える進路指導の工夫とともに、生徒指導上のチーム対応や保護者との連携の在り方について、現場の現状と課題を報告します。</p>
41	丸亀市立南中学校
	<p>【研究主題】いつでも・どこでもつながる校務環境の構築 ～県域アカウントがつなぐ校務効率化とデジタル活用スキルの向上～ 令和8年度から運用を開始した、香川県の県域アカウントを活用し、時間割・日報・サイネージ・出張管理など校務情報をリアルタイム共有する「校務DX」を推進。ホワイトボード脱却から始まった取り組みは教員のデジタルスキルを高め、Classroomを活用した職員会や研修を経て、今や授業でのICT活用拡大という大きな波及効果を生んでいます。まずは教員のスキル向上からという目標を立てて、半年間チームで取り組んでいる本校DXの現在地をご紹介します。</p>
42	坂出市立東部中学校
	<p>【研究主題】【道徳科の指導の充実と評価の工夫】 いかに生きるかを考え続ける道徳科の指導の充実 一心がゆらぐ授業づくりを通して－ 道徳科における生徒の「実践意欲・態度」に対する意識調査結果を課題と捉え、安心できる集団を基盤に「心のゆらぎ」を意図的に生む道徳科の授業づくりと丁寧な振り返りを実践し、いかに生きていくかを深く考え続けることができる生徒の育成を目指しました。「心のゆらぎ」や日常と結ぶ発問で学びを深め、全校統一の評価と家庭連携、教師の授業改善による指導の充実等に向けた実践を行いました。</p>
43	香川大学教育学部附属特別支援学校
	<p>【研究主題】学びのバリアをなくす授業の工夫 ～特別支援のアイディアを、明日の通常学級のカタチに～ 特別支援学校における授業実践を基に、全ての児童生徒の「分かる」「できる」につながる授業づくりのポイントを紹介します。日頃活用している教材や支援ツールを実際に見て触れていただきながら、特別支援学級はもちろん、小・中学校等の通常の学級でもすぐに取り入れられる具体的な工夫を発表します。</p>
44	香川大学教育学部附属高松小学校
	<p>【研究主題】分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成 ～知や価値を創造するカリキュラムの精選と持続性～ 次期学習指導要領の方向性を踏まえ、学校独自に求められる柔軟な教育課程の在り方について、本校の実践をもとに提案します。特に、個人追究の時間に関して、子どもの育ちを子どもの生の声でお届けいたします。</p>
45	香川大学教育学部附属高松中学校
	<p>【研究主題】自らを高め続け、新たな時代に向けて責任をもち行動する人間の育成を目指した教育課程の開発 ―新領域「MIRAI」の実践― 各教科で育む知性の視点から「知の構造」を用いて学習内容や指導内容を整理した「教科する教科学習」について提案します。また、知性を発揮し伸ばすとともに、省察性を育む「協働の学び」と「個の学び」を編成した新領域「MIRAI」を設置した教育課程の実践の成果発表を行います。</p>

46	香川大学教職大学院
	<p>【研究主題】「学校現場の課題解決に向けた理論と実践の往還」 （フォローアップ・プログラム発表）</p> <p>香川大学教職大学院は、「理論と実践の往還」を重視し、「学び続ける教員」の育成を目指しています。本発表会では、フォローアップ・プログラムに参加する院生が、授業改善や探究的な学び、多様な教育的ニーズに応じた支援等の実践成果を発表します。発表テーマは11月に教職大学院HPへ掲載予定です。</p>
47	義務教育課・国分寺中学校 PTA
	<p>【研究主題】学校・家庭・地域との連携</p> <p>本発表では、AIドリルを活用した先進的な家庭学習の取り組み事例や、基礎基本の定着に向けた県内の小中学校の取り組みを紹介します。あわせて、国分寺中学校PTAが主体となり、地域の事業所と連携して開催したお仕事紹介のイベントについて具体的プロセスを発表し、地域・家庭と学校が協働する実践例を発表します。</p>

48	教育実践優秀教員
	<p>学校教育において積極的に教育実践に取組み、顕著な成果をあげている教員を表彰し、その功績に報いるとともに、その成果の普及を図ることを目的として、平成15年度から「教育実践優秀表彰制度」を導入しています。令和8年度の教育実践優秀教員の実践内容を直接お伝えします。</p>

○総合授業リーダー事業	
<p>授業を公開する「授業づくりチャレンジャー（以下、チャレンジャー）」と、それを支える「授業づくりサポーター（以下、サポーター）」が共に授業づくりに取り組みました。県が示す「授業改善のポイント」をもとに授業づくりに取り組んだ過程を発表します。</p>	